

会 議 録（案）

会 議 名	令和6年度第3回小金井市史編さん委員会		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	令和7年3月17日（月）午前10時00分から午前11時15分		
開 催 場 所	市役所第二庁舎801会議室		
出 席 委 員	根岸委員長 中嶋委員 井上委員 日高委員 神山委員 大熊委員		
欠 席 委 員	牛米委員		
事 務 局 員	三浦生涯学習課長 碓井文化財係長 高木主任（学芸員） 海谷文化財センター職員		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	0名
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	1 議 事 (1) 「ビジュアル版 小金井市史」（仮）の検討状況について ア 編集委員会議の結果について イ 頒布物の名称について ウ 目次構成について エ 刊行スケジュールの確認・デジタル版の仕様について 2 報 告 (1) 多摩郷土誌フェアについて (2) 名勝小金井（サクラ）名勝指定100周年記念事業について 3 その他 4 次回以降の会議日程 令和7年6月24日（火）午前10時から 西庁舎第5会議室		

会 議 結 果

三浦生涯学習課長	皆様おはようございます。本日はご多忙の折、令和6年度第3回市史編さん委員会にご出席賜り、ありがとうございます。 それでは、議題に先立ちまして、本日の配布物の確認をお願いいたします。
高木主任（学芸員）	（資料確認）
三浦生涯学習課長	それでは、議事進行につきましては根岸委員長にお願いさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
根岸委員長	本日もお忙しいところお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。 本委員会におきましては、今後当面の間、「ビジュアル版 小金井市史」（仮）に関する議題を中心に議事を進めていくことになると思いますが、小金井市の「市史編さん事業」は息の長い事業として続いていること、そして短期間で突貫工事的に進めるのではなく、本委員会及び編集委員会において議論を尽くしながら進めていることなどは非常に特徴的であり、今後もそのような特徴を大切にしながら進めてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様及び事務局におかれましては、ご協力の程よろしくお願いいたします。 それでは、議題に沿って進めさせていただきます。
根岸委員長	1 議 事 (1) 「ビジュアル版 小金井市史」（仮）の検討状況について それでは、「(1) 『ビジュアル版 小金井市史』（仮）の検討状況について」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
海谷文化財センター職員	文化財センター職員の海谷です。よろしくお願いいたします。 「ビジュアル版 小金井市史（仮）」の検討状況につきましてご説明させていただきます。 令和6年12月20日開催の「編集委員会」において、タイトル案候補の抽出及び目次構成案について、一定の方向性を確認しました。 タイトル案につきまして、事務局より、他自治体の類似刊行物の事例等を参考に、数案をお示しさせていただいた中で、編集委員会におきましては、「小金井市史ビジュアル版 見る・読む・調べる 小金井の歴史」が、子どもの「調べ学習」の教材となり得る刊行物であることも表現できており、最も良いのではないかと、とのご意見を編集委員の皆様からいただいたところです。ポイントは、「ビジュアル版」という文言を入れるか否か、という点であり、編集委員会では、「入れる方がよい。」とのご意見を編集委員の皆様からいただきましたが、同義の文言として「普及版」「図録」という表現もご

	ざいますので、その可能性も残しております。 また、市の呼称につきまして、「小金井市」と表記するのか、或いは「小金井」と表記するのか、という点につきまして編集委員会議においてご議論をいただきましたが、小金井市の場合は、例えば「千葉」のように地名表記のみでは、「千葉市」なのか「千葉県」なのか判断できない、ということはないため、「小金井」のみでよいのではないかと、とのご意見を編集委員の皆様からいただいたところです。 なお、候補案には入れていませんが、他自治体事例においては「初めての●●市史」という例もありましたので、参考として記載しています。 本件につきましては、最終的な意思決定として、本委員会にお諮りさせていただくものです。
根 岸 委 員 長	ありがとうございます。タイトル案につきましては、編集委員会議の場では、編集委員の皆様から「見る」「読む」「調べる」、中でも特に「調べる」の文言は入れるべき、とのご意見をいただきました。 令和6年度 第3回 市史編さん委員会のおきまして委員の皆様よりご意見をいただき、可能でしたら一定の方向性を決定することができれば、と思います。何かご意見・ご質問等はございますか？
井 上 委 員	個人的には、編集委員の皆様と同意見で、「小金井市史ビジュアル版 見る・読む・調べる 小金井の歴史」が最も良いと考えます。 「普及版」「図録」のような表記は、「コンパクト」「ビジュアル的」というイメージが伝わりづらいと考えます。
大 熊 委 員	令和6年度に実施している「名勝小金井（サクラ）名勝指定100周年記念事業」におきましては、「知る つなげる 笑顔広がる」という3つの柱を掲げて事業を実施し、結果的に非常に盛り上がった、という経過がございます。 それにあやかる、というわけではありませんが、「見る・読む・調べる 小金井の歴史」というタイトルは、「ビジュアル版 小金井市史」の特長や目指している部分を非常に伝わりやすく表現できており、「小金井市史ビジュアル版 見る・読む・調べる 小金井の歴史」が1番良いのでは、と考えます。
海谷文化財センター職員	「調べる」につきましては、「ビジュアル版 小金井市史」で扱うテーマ毎に「小金井市史」内の関連ページを掲載することを予定しており、それを以て資することができると思っています。 「見る」につきましては「ビジュアル版 小金井市史」そのもののズバリですし、「読む」につきましても、各ページに必ず一定量の解説文は記載いたしますので、それだけでも十分に「読む」ことはできますが、「コラム」という形で、1ページ単位で、テーマに沿った読み

	物のページも設ける予定ですので、十分に資することができるものと考えています。 もしタイトルを「小金井市史ビジュアル版 見る・読む・調べる 小金井の歴史」とする場合、「見る」「読む」「調べる」それぞれに該当する部分ができるような記載を加える、という手法も考えられると思います。
神 山 委 員	タイトルに「『ビジュアル版』」という文言を入れるか否か、につきましては、個人的には入れるべきと考えています。 また、お示しいただいたタイトル案の中では「小金井市史ビジュアル版 見て読む小金井」が短く伝わりやすさもあり、インターネット・SNS等での情報発信を行う際にも良いのでは、という印象を持っていますが、やはり「調べる」という観点についてもしっかりとお伝えしていくことも重要であると考えますし、「小金井市史ビジュアル版 見る・読む・調べる 小金井の歴史」でもよいと考えています。
大 熊 委 員	「見る・読む・調べる 小金井の歴史」を選んだ場合、表紙レイアウトの際に「見る」「読む」「調べる」は小さめのフォントで記載し、「小金井の歴史」を大きめのフォントで記載する形になると思われますが、「見て読む小金井」の場合、全ての文字を同じ大きさのフォントになると思われますので、どちらが良いのか少し悩みます。
海谷文化財センター職員	では、令和7年3月19日時点においては「小金井市史ビジュアル版 見る・読む・調べる 小金井の歴史」「小金井市史ビジュアル版 見て読む小金井」の2案を第1候補・第2候補、という扱いとし、絞り込みについては後日別途行う、とすることでいかがでしょうか？
根 岸 委 員 長	他にご意見・ご質問等はございますか？
日 高 委 員	個人的には「小金井市史ビジュアル版 見て読む小金井」がよいと考えます。やはりタイトルは短い方がインパクトも出せますし、インターネット検索の際もヒットしやすい、ということ、そして、タイトルが長いと、どうしても説明的になってしまうきらいがある、ということでそのように考えます。
中 嶋 委 員	タイトルの中に「小金井市史ビジュアル版」という文言は入れる方がよいと考えます。「小金井市史ビジュアル版 見る・読む・調べる 小金井の歴史」「小金井市史ビジュアル版 見て読む小金井」の2案のどちらを選択するかにつきましては、実際に編集作業を進める中で考えてもよいのでは、と考えます。
根 岸 委 員 長	ありがとうございます。では、令和7年3月19日時点においては

	「小金井市史ビジュアル版 見る・読む・調べる 小金井の歴史」「小金井市史ビジュアル版 見て読む小金井」の2案を第1候補・第2候補、という扱いとし、絞り込みについては別途行う、とすることによっていでしょうか？
委員 全 員	(異議なし)
根 岸 委 員 長	それでは、引き続きまして、「台割表」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
海谷文化財センター職員	引き続きまして「台割表」についてご説明させていただきます。 「台割表」は、「令和6年度 第2回 市史編さん委員会」において資料としてお示しさせていただいており、令和6年12月20日開催の「編集委員会議」におきましても、改めて編集委員の皆様はその内容についてご確認をいただき、「概ね問題ない」との一定の合意をいただきましたことから、その内容でお示しさせていただいています。 今後、実際に執筆・編集作業を進めていく中で、修正が必要な点は当然に出てくるものと認識していますが、令和7年3月19日時点の案といたしましては、既刊の「小金井市史 通史編」における記載内容とページ数の割合を参考に作成したものととなります。 本件については、本日の委員会の場におきまして、可能であれば方向性についてご承認をいただけたら、と考えています。
根 岸 委 員 長	各章の内容・割合等につきまして簡単にご説明いただけますか？
海谷文化財センター職員	まず、割合につきましては、「小金井市史 通史編」における時代区分毎のページ数の割合と同じ割合としています。具体的なページ数につきましては、「第Ⅰ章 原始」が20ページ、「第Ⅱ章 古代」が4ページ、「第Ⅲ章 中世」が6ページ、「第Ⅳ章 近世」が26ページ、「第Ⅴ章 近代」が32ページ、「第Ⅵ章 現代」が32ページとしています。 なお、「小金井市史 通史編」においては「現代」部分のページ数が最大となっていますが、「現代」部分のみ調整し、近代と同じ32ページの配分としています。 また、令和6年12月20日開催の「編集委員会議」におきましては、「付録」を付けるべき、とのご意見を編集委員の方々よりいただいております。「迅速測図」「小学校変遷表」「地名」等の具体的な内容についてもご提案をいただいておりますことから、付録部分につきましても一定のページ数確保が必要であると見込み、10ページ分確保しております。 全ページ数といたしましては、表紙込みで148ページを予定しており、サイズがA4判となりますので、他自治体の類似刊行物と比較

	し、およそ同等程度、少し厚め、という印象となります。
根 岸 委 員 長	ありがとうございました。 ページ数の割合につきましては、「小金井市史 通史編」における時代区分毎のページ数の割合に準拠していますが、単に「薄くする。」ということではなく、時代毎の特徴を纏め、流れを示すような刊行物を目指している、ということ、そして、時代区分毎のページ数につきましては、今後実際に執筆作業・編集作業等を進めていく過程において、増減していくこともあると想定していますが、令和7年3月19日時点の案としては、このような形で整理していただいた、と認識しております。 何かご意見・ご質問等はございますか？
井 上 委 員	「サブタイトル＝小見出し」が細かく記載されており、興味を惹く形となっていることが非常に良いと思います。
根 岸 委 員 長	ありがとうございます。 「メインタイトル」「サブタイトル」につきましても、今後実際に執筆作業・編集作業等を進めていく過程において、変わっていくこともあると想定していますが、「タイトルでいかに興味を惹きつけるか」という部分にはフォーカスしていきたいと考えております。 他にご意見・ご質問等はございますか？よろしいでしょうか？
委 員 全 員	(特になし)
根 岸 委 員 長	それでは、引き続きまして、「スケジュール」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
海谷文化財センター職員	それでは、引き続きまして「スケジュール」及び「デジタル版仕様」につきましてご説明させていただきます。 スケジュールの細部につきましては別紙資料にてお示しさせていただいておりますが、刊行時期につきましては、令和10年度秋頃を目標としております。 そして、「ビジュアル版 小金井市史（仮）」につきましては、140ページ強の紙媒体の冊子を刊行すると同時に、主に学校教育現場での活用を見込んだ「デジタル版」も合わせて作成することを予定しております。 「デジタル版」につきましては、「令和6年度 第2回 市史編さん委員会」におきまして、その仕様によって刊行スケジュールに大きな差が生じることから、その仕様について早急に決定する必要がある、という話がございました。 そのため、令和6年12月20日開催の「編集委員会議」におきま

して、「ビジュアル版 小金井市史（仮）」の「デジタル版」が目指す「レベル」について編集委員の皆様にご議論をいただきましたので、その内容につきましてご説明させていただきます。

まず、議論に先立ち、事務局におきまして「デジタル版」作成に当たっての「レベル」について4段階を想定いたしました。

最も簡単な手法といたしましては、紙媒体の冊子を単にPDF化するのみ、というものです。

ただし、PDF化するのみであったとしても、検索機能の使用は可能であることから、文字検索はもちろん、引用やテキスト検索も可能であることから、十分に意義はありますし、学校教育現場において児童・生徒の皆さんが使用している端末において見ていただくことも可能です。

その次のレベルといたしまして、PDF化は行いますが、単に紙媒体の冊子をPDF化するのではなく、「より高解像度の画像を添付する。」「PDFデータ内にインターネット上や別画像へのリンクを張る。」「紙媒体の冊子には掲載しなかった画像データについて『付録DVD』を付け、『デジタル版』には『付録DVD』のデータも合わせて掲載する。」等のプラスアルファの内容を盛り込む、というものです。

小金井市史関連の刊行物におけるこれまでの事例では、「小金井市史 資料編 中世・考古」に、市内で発掘された土器の写真データを入れた付録DVDを付けていますので、未だ撮影を行っていない資料の高画質での撮影等の予算措置が必要にはなりますが、小金井市の市史編さん事業としてここまでは対応可能であろう、と考えております。

その次のレベル以降は専門事業者への業務委託が必要になるもので、内容といたしましては、インターネット上に特設サイトを立ち上げ、当該サイト内に「ビジュアル版 小金井市史（仮）」の「デジタル版」や関連データを掲載する、というものです。

さらに上の最上位のレベルといたしましては、単に「インターネット上に特設サイトを立ち上げる。」ことに留まらず、当該サイトにおいて「小金井市デジタルアーカイブ」を構築する、というものです。

ただし、上位2つのレベルの対応につきましては、令和6年12月20日開催の「編集委員会」におきましても委員の皆様にご議論をいただきましたが、予算面の制約はもちろん、制作体制といたしましても、令和7年3月19日時点における「市史編さん委員会」の枠組では対応が難しい、という方向性が示されたものと認識しております。

その前提に立ち、令和6年12月20日開催の「編集委員会」におきましては、どこまでのレベルであれば「市史編さん委員会」として対応可能なのか、そして、その実現のためにはどのような作業が必要となるのかについて検討を行い、方向性として、下から2段階目のレベル、単に紙媒体の冊子をPDF化するのではなく、「より高解像度の画像を添付する。」「PDFデータ内にインターネット上や別画

	像へのリンクを張る。」等のプラスアルファの内容を盛り込んだものの作成を目指すことを確認いたしました。 そして、今後まず取組んでいくことといたしまして、「デジタル撮影を行うべき資料をリストアップする。」ことを行うべき、との方向性が示され、令和7年3月19日現在、事務局においてリスト作成を進めており、令和7年度以降「編集委員会議」の場で委員の皆様からリストをご覧いただき、「デジタル撮影を行うべき資料」についてご意見をお伺いすることを予定しております。 最後に、今後のスケジュールの概要につきましてご説明させていただきます。 令和7年4月から、事務局において原稿執筆及び作図等の作業を本格的に開始し、本委員会及び「編集委員会議」等の場において、編集委員の皆様から「監修」「校正」といった作業をお願いさせていただきつつ、令和8年秋頃を目途に原稿案の「初案」の完成を目指す必要がある、と考えています。 さらに、同時進行で「デジタル撮影を行うべき資料」の選定作業を進め、所要の予算措置に向けた作業等につきましても進めてまいりたいと考えております。 説明は以上です。
根 岸 委 員 長	ありがとうございます。 「ビジュアル版 小金井市史（仮）」の「デジタル版」につきましては、これまで本委員会におきましても委員の皆様から様々なご意見をいただいております。 その上で、「編集委員会議」におきましては、第一義的には紙媒体での刊行を前提とする中で、どの程度「デジタル化」を行うことができるのか、という点について議論を行いました。 その結果、「特設ホームページの立ち上げ」「デジタルアーカイブ」といった取組は、「市史編さん事業」の枠組を超えてしまっていること、予算規模が非常に大きくなることが見込まれること等の事由で、体制や事業期間に制約がある中で実現は難しい、という方向性で纏まり、現実的な取組内容として、単に紙媒体の冊子をPDF化するのではなく、「より高解像度の画像を添付する。」「PDFデータ内にインターネット上や別画像へのリンクを張る。」等のプラスアルファの内容を盛り込んだものの作成を目指す、という方向性で進めさせていただければ、と思いますがいかがでしょうか？
大 熊 委 員	まずは、特に編集委員の皆様におかれましては、案を纏めるまでの間、多くのご議論をいただき深謝いたします。 紙媒体の冊子をPDF化することに留まらず、「より高解像度の画像を添付する。」「PDFデータ内にインターネット上や別画像へのリンクを張る。」等のプラスアルファの内容を盛り込んだものの作成

	を目指す、という方向性で是非進めていただければ、と思います。 ただ、一点気になった点といたしましては、「小金井市史 資料編 中世・考古」に、市内で発掘された土器の写真データを入れた付録DVDを付けていた、との説明がございましたが、令和7年3月19日現在においては、DVDリーダー機能を内蔵したPCは少数派であり、学校教育現場においても、既にChromebookを運用しており、DVDリーダーは備付していない、という実情があり、付録DVDがあっても見ることはできないのではないか、という点が気になりました。
海谷文化財センター職員	その課題は確かにございます。ですので、令和7年3月19日時点におきましては、「ビジュアル版 小金井市史（仮）」に付録としてDVDを付けるか否かにつきまして、結論は出しておりませんが、ポイントは、「データとして完結したものを作成する。」という点にあり、形式についてDVDに拘る必要はなく、インターネット上からダウンロードしていただく等、様々な形が考えられると認識しており、データとして完結したもののさえあれば、学校教育現場において閲覧していただくことは可能であると認識しています。
大 熊 委 員	学校教育現場においてはChromebookを運用しており、必要となるデータについては全てGoogleのサーバーに格納されています。
中 嶋 委 員	「DVDを作成する。」という方向性は良いとして、その上で中身のデータについて、インターネット上からダウンロード可能な形にすることは可能ですか？
海谷文化財センター職員	DVD1枚に格納可能なデータ量は多くて4GB程度ですので、インターネットが高速化した現代においては、十分にダウンロード可能な容量であると認識しています。
中 嶋 委 員	その場合の予算措置はどの程度の規模が見込まれますか？
海谷文化財センター職員	自前でサーバーを運営するのであれば、相応の予算措置が必要になることが見込まれますが、一般的に運用されている無料のインターネット上のサーバーを使用するのであれば、予算措置は不要となります。 ただし、市の刊行物の正式なデータ保管場所として適切かどうか、という点の疑義は残りますので、場合によっては必要最低限の予算措置は必要になるかもしれません。
日 高 委 員	公的なデータになりますので、ハッキング等のリスクも鑑み、データの内容や保管場所については一定の配慮は必要になると考えます。

	また、「ビジュアル版 小金井市史（仮）」につきましては、刊行後の販売を前提とされていると思いますが、その付録として付けられているデータがインターネット上で自由にダウンロード可能となっていたら、購入してくださる方がいなくなるのでは、という危惧もありますので、データの扱いについてはきちんと検討する必要があると考えます。 確かに、DVDリーダー機能を内蔵したPCは今や少数派であることは事実であり、今後さらに少なくなっていくのではないかと考えます。 ただし、それはあくまで「メディアの種別」の問題であり、今日多く運用されているUSB・SDカード等を選択すればよいだけのことであると考えます。 「メディアの種別」につきましては、後々の検討課題、という整理で問題ないと考えますので、「令和6年度 第3回 市史編さん委員会」の場におきましては、当該データにつき、学校教育現場を含め閲覧可能な状態とする、という方向性が確認できれば良いのでは、と考えます。 最良の方法としては、一定の予算措置は必要となりますが、市公式のサーバーを持ち、当該サーバー内にデータを格納する、という手法であると考えますが、予算面などの制約もあると考えますので、次善の策として「メディアを付録として付ける。」という手法が現実的なのでは、とは考えますが、いずれにいたしましても、手法については検討が必要であると考えます。
根 岸 委 員 長	いずれにいたしましても、刊行するのは令和10年度ですので、その間でPCやインターネットの環境が劇的に変化する可能性も少なからずあると考えますので、データ作成に係る作業については先行して進めるとして、その公開に係る手法については刊行直前期の状況を鑑みて別途決定する、という形でよろしいでしょうか？
大 熊 委 員	「ビジュアル版 小金井市史（仮）」の「デジタル版」につきましてはその形でよいと考えます。 一方で、本市の文化財行政の大きな課題の1つとして「若年層の文化財センター来館者の減」というものがあり、その大きな理由として、これまで市立小学校3年生の学校教育課程において、「私たちのまちの昔」の学習の際に「文化財センター」の見学を行っていましたが、近年では距離的にも近く、原寸大の江戸時代の農家の再現モデル等の子どもたちの興味を惹く設備が充実している「江戸東京たてもの園」がその用に供されるようになったことが挙げられます。 そのような現状がある中で、今後求められる「地域資料の見せ方」として、近隣市の小平市等の他自治体の事例にもあるように、「デジタルアーカイブ化」を行い、現物をご覧になりたい際に文化財センタ

	一にお越しいただく、そして、現在の文化財センターについては、例えば、歴史資料の調査研究や市史編さん事業の拠点とする、という考え方もできるのでは、と考えています。 「ビジュアル版 小金井市史（仮）」の「デジタル版」刊行、というせっかくの機会を、可能であれば「デジタルアーカイブ」の足掛かりにできれば、という思いはあります。
根 岸 委 員 長	当面は「ビジュアル版 小金井市史（仮）」の刊行に向けた原稿執筆・作図・構成等の作業を進めつつ、そのような点につきましても今後の検討材料としていく、という形でよろしいでしょうか？
日 高 委 員	先ほど事務局からの説明もありましたが、やはり「デジタルアーカイブ」に係る検討につきましては、「市史編さん事業」の範囲を超えるものであり、「文化財保護審議会」においてしっかりとご議論をいただき、その上で必要と判断した項目については、所要の予算措置を目指していく、という形が本来であろうと考えています。 同様に、「文化財センターの活用」というテーマにつきましても、個人的にも「デジタル化」も重要なテーマであるとは考えますが、やはり「実物」の魅力を発信していく、ということは大変重要であると考えますし、やはり「市史編さん事業」の範囲を超えるテーマであり、「文化財保護審議会」においてしっかりとご議論をいただいた上で今後の方向性を考えていくべきもの、と考えています。
根 岸 委 員 長	「市史編さん事業」に限らず、文化財行政における課題は山積しているものと認識しておりますが、「市史編さん事業」に係るテーマについては、今後も本委員会におきまして随時議論してまいりたいと考えております。 「ビジュアル版 小金井市史（仮）」関連につきまして、他にご意見・ご質問等ございますか？よろしいでしょうか？
委 員 全 員	(特になし)
根 岸 委 員 長	ありがとうございます。 それでは、「ビジュアル版 小金井市史（仮）」刊行に向けた作業につきましては、今後、本日も説明いただきましたスケジュールに沿って進めてまいりたいと考えています。
根 岸 委 員 長	2 報 告 (1) 多摩郷土誌フェアの開催について それでは、「(1) 多摩郷土誌フェアの開催について」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

碓井文化財係長	それでは、多摩郷土誌フェアにつきましてご説明させていただきます。 多摩地域各市町村の文化財行政担当者が一堂に会し、各市の各自治体の市史や文化財に関する刊行物を即売会形式で販売する本イベントは、令和6年度は令和7年1月18日（土）・19日（日）の2日間、立川市柴崎学習館において開催されました。 主催者である東京都市社会教育課長会の令和6年度会長市である立川市をはじめ、参加された23市町の担当者の皆様並びにご参加いただいた参加者の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。 ご来場いただいた方の人数は、18日（土）が257名、19日（日）が184名で、2日間合計で441名の方にご来場いただきました。 うち、小金井市のブースで刊行物をご購入いただいた方の人数は、18日（土）が19名、19日（日）が8名で、2日間合計で27名の方にご購入いただきました。 売上額は、18日（土）が11,400円、19日（日）が4,050円で、2日間合計15,450円でした。 小金井市単体で申し上げますと、購入者数、売上額ともに令和5年度より大きく下回る結果となりました。 理由といたしましては、令和6年12月8日（日）に開催いたしました名勝小金井（サクラ）名勝指定100周年記念式典の際に、ご招待者の皆様にお渡しさせていただいた記念冊子の無料配布を行ったことで興味を示してくださる方は多かったものの、初めて郷土誌フェアに出品する、いわゆる「新刊本」がなく、購入のきっかけに乏しかったことが挙げられると考えています。 今回の成果・課題につきましては、今後の刊行物計画の立案の際の参考にさせていただきたいと考えております。 説明は以上です。
根岸委員長	ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、何かご意見・ご質問等はございますか？
委員全員	（特になし）
根岸委員長	「多摩郷土誌フェア」は長年続いている催しで、小金井市で刊行している刊行物について、小金井市民以外の方々にも知っていただく貴重な機会として非常に意義深いと考えております。今後も是非長く続けていただければ、と考えております。よろしくお願いいたします。
根岸委員長	(2) 名勝小金井（サクラ）名勝指定100周年記念事業について それでは、「(2) 名勝小金井（サクラ）名勝指定100周年記念事業について」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

高木主任（学芸員）	「名勝小金井（サクラ）」が、令和6年12月9日に名勝指定100周年を迎えました。 市では、これを祝し、前日の令和6年12月8日（日）に、「名勝小金井（サクラ）名勝指定100周年記念式典」を開催いたしました。 式典当日は、市内外の約250名の関係者の方々にご出席を賜り、盛大に執り行わせていただきました。 また、同日午後には「名勝小金井（サクラ）名勝指定100周年記念お祝いの会～笑顔広がる！小金井桜フェス～」を開催し、約1,000名の市民の方々にお越しいただき、「小金井市玉川上水・小金井桜整備活用推進委員会」委員長の亀山 章氏による記念講演、市指定無形民俗文化財「関野町餅つき」公演、小金井市文化協会加盟団体による「伝統芸能及びキッズダンス」公演等をお楽しみいただき、大盛況のうちに終わることができました。 この間、本委員会におきましても、本事業の進捗につきましては随時ご報告させていただいておりますが、この間、市主催事業のみならず、市内団体や市内事業者の皆様のお力添えもいただきながら、70を超える事業を行うことができました。 「玉川上水・小金井桜整備活用事業」は、本記念事業を1つのきっかけとして、今後も「次の100年」に向けてより力を入れていくこととなりますが、「次の100年」を見据えた際に、市史編さん事業におきましても、まずは「ビジュアル版 小金井市史（仮）」をしっかりと刊行し、それを以て様々な世代の方々に啓蒙していくことが重要と考えておりますので、委員の皆様におかれましては今後とも何卒よろしくお願いいたします。 説明は以上です。
根 岸 委 員 長	ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、何かご意見・ご質問等はございますか？
日 高 委 員	「名勝小金井（サクラ）」を形成するヤマザクラについては、DNA分析等を行っているのでしょうか？
高木主任（学芸員）	分かる範囲での回答となりますが、「名勝小金井（サクラ）」のDNA分析につきましては、現在、「名勝小金井（サクラ）」の保護活動に携わっている市民団体「名勝小金井桜の会」と法政大学のDNAを専門とする研究室によって連携して進められており、少しずつ解析が進んでいると聞き及んでいます。 ただし、大正期に存在していたものまで遡る、というところまでは行き着いていない、というのが現状です。 桜川（茨城県）等の桜が植樹されたことは判明していますので、今後はそういった桜のDNA照合等も行いつつ、最終的には現存している桜がどの程度江戸時代に由来するものなのかが分かってくれば、と

	考えています。
日 高 委 員	現在、近隣市の三鷹市においても、「ワサビ田のワサビ」について似たような話が出ており、「DNA分析を進めていくことでどこに遡れるのか？」という話が具体化してきている状況があり、そういった点については今後明らかにしていくべきと考えています。 他方、このような内容は「明らかにすることのリスク」もあることは事実ですが、「できることをやっていく。」という方法もあると考えていますので、市史とは直接的な関連はないテーマではありますが、進めていただければ、と考えています。
根 岸 委 員 長	ありがとうございます。本件につきましては、一朝一夕に結果を出せるテーマではなく、息の長い研究・分析が求められる課題と認識しておりますので、粘り強く進めていただければ、と考えます。 他にご意見・ご質問等はございますか？よろしいでしょうか？
委 員 全 員	(特になし)
根 岸 委 員 長	3 その他 それでは、「3 その他」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
三浦生涯学習課長	事務局からは特にございません。
根 岸 委 員 長	委員の皆様からは何かございますか？よろしいでしょうか？
委 員 全 員	(特になし)
根 岸 委 員 長	4 次回の会議日程候補 それでは、「4 次回の会議日程候補」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
碓井文化財係長	令和7年度 第1回 市史編さん委員会につきましては、令和7年6月24日（火）午前10時より、西庁舎第5会議室におきまして開催させていただきたい、というのが事務局案でございます。
委 員 全 員	(異議なし)
根 岸 委 員 長	以上で本日の議題は全て終了いたしました。他に何かございますでしょうか？よろしいでしょうか？
委 員 全 員	(特になし)

根 岸 委 員 長	それでは、以上をもちまして令和6年度 第3回 市史さん委員会を終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。
-----------	--